

## 『敦煌祕笈』所收寫本研究論著目錄稿

山本孝子編

『敦煌祕笈』目錄册および影片册全9册の刊行（2009～2013）が完了してからすでに三年が経過し、杏雨書屋所藏の敦煌文書を利用した研究成果の報告が盛んとなっている。そこで、『敦煌祕笈』刊行以前の過去の関連業績もカバーしつつ最新の情報を反映させ、所藏番號ごとに時系列に沿って網羅採録した目錄を作成し、利用の便に供したいと考えた。本目錄の収録対象・分類整理の基本方針は後掲の「凡例」に述べる通りであるが、ごく簡単に研究の動向について觸れておくことにしたい。

すでに知られている通り、杏雨書屋所藏「敦煌祕笈」には全736點（羽1～羽775のうち、羽486～羽500は缺番）が含まれる<sup>1</sup>。舊藏者の目錄やわずかな圖録に基づき研究が進められることもあったが<sup>2</sup>、これまで非公開であったコレクションの全容を把握できるようになったのは大きな前進と位置付けられる<sup>3</sup>。

寫眞が公開されたことによる最大の収穫は、寫本の表裏の状況や他のコレクションとの接合関係について確認が可能となったことであろう。いわゆる“劫餘”部分においてだけでなく、イギリス・フランス・ロシアなどのコレクションと繋がるものも少なくない。眞偽のほどが疑われていた寫本についても、他のコレクションとの接合関係により眞作であることが裏付けられたり、逆に偽造の過程が明らかとなったものもある<sup>4</sup>。他との接合については寫本の入手経路、さらには眞偽問題にも繋がる重要な情報であることから、現時点で明らかとなっているものについてはすべて目錄中に明記することとした。また、敦煌以外の地域からもたらされた寫本が混在していることも確認されている。

研究の進展とともに、目錄の不備が指摘されている。例えば、羽71は目錄では

<sup>1</sup>來歴について詳しくは高田2015、特に「三、杏雨書屋所藏の“敦煌祕笈”を参照。

<sup>2</sup>目錄・圖録については、山本孝子「敦煌吐魯番文獻圖録目錄集覽稿」『敦煌寫本研究年報』第2號，2008，「V. 中國（李盛鐸舊藏）」および第3號，2009，「XVI. 日本（散録）」を参照。古寫眞については、識語に附記される「圖版所在」、岩本2010cも合わせて参照。

<sup>3</sup>しかしながら『敦煌祕笈』カラー寫眞についても十分に鮮明であるとは言いがたく、研究の精度を上げるためには、やはり原寫本の實見調査を缺かすことができない。

<sup>4</sup>高田2015「五、作偽の一例」。

その内容は變文であるとされるが、実際には全六紙のうち變文が記されているのは四紙のみであり、残り二紙は二通の手紙が貼り合わされたものである<sup>5</sup>。このように不足があるもののほか、擬題が不正確であるもの、内容が同定されていないものなどについても全容が見えつつある。従前の研究成果を十分に踏まえた上で、各寫本の基礎的な情報を綿密に調べ直し、整理・補訂作業を行うことは不可欠かつ緊要の課題であるといえるだろう。

## 凡例

- (1) この目録は、公益財団法人武田科學振興財團杏雨書屋所藏『敦煌祕笈』（大阪：武田科學振興財團，2009-2013）所收の寫本を扱う研究論著を所藏番號ごとに列挙したものである。但し、所藏番號に言及するのみで特に寫本の内容についての議論がない論著のほか、一般に流通していない未公開の論文・報告書・豫稿集・發表要旨などは割愛した。
- (2) 『敦煌祕笈』公刊以前に羽田亨博士收集西域出土文獻寫眞を利用した研究についても、釋文が示されているものを中心に可能な限り取り上げた<sup>6</sup>。
- (3) 従前の研究において、他の所藏機關の寫本との接合、あるいは同一寫本の離れであることが明らかとなっているものについては、文書番號のあとに註記する<sup>7</sup>。
- (4) 敦煌以外の地域からもたらされたことが明らかなものについては、文書番號のあとにその出土地を註記する。
- (5) 所藏番號ごとに研究文獻の發表年代順に配列し、リスト末尾に著者別の文獻一覽（アルファベット順）を附す。
- (6) 2016年12月末時点において確認できているものを採録する。
- (7) 目録の作成に当たっては、岩本2010c、鄭阿財「杏雨書屋《敦煌祕笈》來源、價值與研究現況」『敦煌研究』2013年第3期，116-127頁、陳麗萍・趙晶「日本杏雨書屋藏敦煌吐魯番文書研究綜述」；趙晶・陳麗萍「日本杏雨書屋藏敦煌吐魯番文書研究論著目録（2009-2014）」、『2014敦煌學國際聯絡委員會通訊』上海：上海古籍出版社，2014，74-85頁；362-372頁を参照した。

<sup>5</sup>山本2011、山本2015。

<sup>6</sup>ただし、景教文獻（羽13、羽431、羽459、羽460）については『敦煌祕笈』公刊以前にも少なからざる議論がなされてきたが、ここでは逐一取り上げていない。また、公刊後であっても『敦煌祕笈』の寫眞を使用せず、先行研究の釋文等に據っているものについても割愛した。岩本2016に研究史が整理されているので参照されたい。

<sup>7</sup>公開と同時に多くの専門家がそれぞれ研究に着手したことにより、複数の研究者が同一寫本に集中して同様の成果を發表し、相互に参照がなされていない状況も散見される。それが誰の発見であるのか、その先後をいうのは難しい場合が少なくない。そのため、ここでは敢えて特定の文獻を註記していない。必要に応じて文書番號別に列挙した研究成果を参照されたい。

(8) 末尾にこのコレクションの来歴など全体に関わる論著を「総論」として附す。

所藏番號別研究文献一覧（年代順）

【羽 1】

識語 222

【羽 2】

識語 38、鄭阿財 2016

【羽 3R】 P.2735 と接合

劉永明 2010、王卡 2015、劉永明 2016

【羽 4】

識語 167、大屋 2014

【羽 5】

識語 310

【羽 6】

識語 604、陳濤 2010b、朱鳳玉 2016

【羽 7】

識語 625、陳濤 2010b

【羽 8】

識語 520

【羽 9】

陳濤 2010b

【羽 11】

落合 2002

【羽 12】

陳濤 2010b、岩本 2016

【羽 13】

陳濤 2012、高橋 2013、高橋 2014、王蘭平 2015、Nicolini-Zani 2016、  
岩本 2016

【羽 14 ノ 1】 S.6121 と接合、上博 24 (24579)、S.11910、BD09954 は同一寫本の離れ

王天然 2012、夏國強 2016

【羽 14 ノ 2】

夏國強 2016

【羽 14 ノ 3】 P.2620 は同一寫本の離れ

王天然 2012、夏國強 2016

- 【羽 15 ノ 1】 P.2669 と接合  
許建平 2012、王天然 2012
- 【羽 15 ノ 2 ノ 1、羽 15 ノ 2 ノ 2】 Dx.0588 は同一寫本の離れ  
許建平 2012、王天然 2012
- 【羽 15 ノ 3】 S.3330、P.2978、S.6346、S.6196 は同一寫本の離れ  
許建平 2012、王天然 2012
- 【羽 15 ノ 3 ノ 2 ノ 1】  
劉永明 2010、陳于柱 2015
- 【羽 16】 Dx.04512、Dx.01712 と同一寫本の離れ  
王天然 2012
- 【羽 18】 S.2074 と同一寫本の離れ  
王天然 2012
- 【羽 19R】 P.4988 と接合  
賈曉明・馬鴻雁 2012、黃薇 2014、王卡 2015
- 【羽 19V】 P.4988V と接合  
張涌泉・張新朋 2012、張涌泉 2015
- 【羽 20R】  
TTD1-X、陳濤 2010a、岡野誠 2011
- 【羽 20V】  
岡野誠 2011
- 【羽 24】 羅振玉舊藏貞松堂本と接合。貞松堂本は P.3354、S.3907 と接合する<sup>8</sup>。  
TTDs-26、池田溫 1998b、池田溫 2011、陳國燦 2012、陳  
國燦 2013
- 【羽 24V】  
鄭阿財 2016
- 【羽 25V】  
陳國燦 2012、陳國燦 2013、陳晶 2014
- 【羽 27 ノ 1】  
TTD 3-272、TTDs-敦煌發現契 I-3、池田溫 2000、陳國燦 2012、陳  
國燦 2013、陳麗萍 2014a、池田溫 2011

---

<sup>8</sup>羽 24R と貞松堂本が接合することは陳國燦 2012 で指摘される。貞松堂本と S.3907、P.3354v の接合については、池田溫 1957 「敦煌發見唐大曆四年手實殘卷について (上)」『東洋學報』第 40 卷第 2 號, 76 頁注 (1) に指摘がある。

- 【羽 28】  
TTD3-276、TTDs-30、池田温 2000、陳國燦 2012、陳國燦 2013
- 【羽 31】  
岩本 2006、岩本 2013
- 【羽 32】  
高田 2011、陳國燦 2012、陳國燦 2013、齊藤 2014、陳濤 2014、陳濤 2015
- 【羽 33】 Дх.02352 と接合  
牧野和夫 2003、張涌泉 2015
- 【羽 34】  
池田温 2000
- 【羽 35】  
池田温 2000
- 【羽 36R】  
陳國燦 2012、陳國燦 2013
- 【羽 37】 S.19、Дх.3903 は同一寫本の離れ  
金少華 2010、張小虎 2011
- 【羽 38R】 羽 72aR は同一寫本の離れ  
岩本 2004、岩本 2010a、陳勇 2014
- 【羽 38V】 羽 72aV は同一寫本の離れ  
劉永明 2010
- 【羽 39R】  
湯谷 2004
- 【羽 39V3】  
鄭阿財 2010、玄 2011、張涌泉 2015
- 【羽 40R】 BD12242 (臨 2371) と接合<sup>9</sup>  
岩本 2005、小曾戸 2010<sup>10</sup>、劉永明 2010、岩本 2010b、岩本 2011a<sup>11</sup>
- 【羽 40V】  
鄧文寬 2012

<sup>9</sup>當該寫本が BD12242 と接合することについては、張磊「日本古辭書所引《本草》與敦煌本《本草》比較研究」『敦煌學輯刊』2013 年 1 期、67-72 頁にも指摘があるが、特に羽 40R の内容に関する議論は見られないため、ここには挙げていない。

<sup>10</sup>「第 1～3 行に接續する零片が北京の國家圖書館に所藏されていることが近年判明したが、目下公開されていないので、今回は残念ながら紹介できない」という。

<sup>11</sup>臨 2371 との接合狀況について圖入りで説明がある。

- 【羽 41R】  
岩本 2011b、趙貞 2014
- 【羽 41V】  
鄧文寬 2012
- 【羽 42R】  
陳明 2012
- 【羽 42V】  
陳于柱 2014
- 【羽 43】  
陳明 2012
- 【羽 44】  
劉永明 2010、岩本 2011c、岩本 2012、游自勇 2013、王祥偉 2014a、  
王祥偉 2014b
- 【羽 45】  
陳濤 2010b
- 【羽 46】  
陳濤 2010b
- 【羽 49R】  
蔡淵迪 2012
- 【羽 52】  
王祥偉 2011
- 【羽 53】  
山口 2012、陳麗萍 2014a
- 【羽 56R】  
許建平 2011、聶志軍 2013、虞思徵 2014
- 【羽 57R】 S.692 と接合  
陳麗萍 2013、田衛衛 2015、張涌泉 2016
- 【羽 59R】 P.3191、S.5861D、BD10613、BD10076、S.9951、S.5861C、S.5861A と接合  
陳麗萍 2014b
- 【羽 61】 BD11177、BD11178、BD11180 は同一寫本の離れ  
赤木 2011、速水 2016
- 【羽 62R】  
陳麗萍 2014a

【羽 62V】

陳麗萍 2014a

【羽 63】

池田温 2011、陳麗萍 2014a

【羽 64】

王祥偉 2011、陳麗萍 2014a

【羽 65】

王祥偉 2011

【羽 65ノ1】

呂德廷 2014

【羽 66R】

陳麗萍 2014a

【羽 67R】

高啓安 2012

【羽 67V】

高啓安 2012

【羽 68】

王祥偉 2011

【羽 69ノ1】

陳麗萍 2014a

【羽 71】石谷風本(『晉魏隋唐殘墨』70頁、71頁+69頁所收の3點)とBD04085+BD03789

は同一寫本の離れ

〈變文〉張涌泉 2015、荒見 2016

〈手紙〉山本 2011、山本 2015

【羽 72ノaR】羽 38R は同一寫本の離れ

岩本 2004、岩本 2010a、陳勇 2014

【羽 72ノaV】

劉永明 2010

【羽 72ノbノ1、2】

劉永明 2010、周西波 2012、王三慶 2014、王卡 2015

【羽 72ノbノ2】

永田 2015

【羽 73】S.5450、S.5544、P.2876、Дx.8850 に書寫される『金剛經』はすべて同じ筆跡

張總 2015、張小剛・郭俊葉 2015

【羽 77R】

馬德 2011

【羽 81】

鄭阿財 2016

【羽 81V】

鄭阿財 2016

【羽 84】

落合 2001、林敏 2004、林敏 2005、林敏 2008

【羽 87】 BD5872 と接合

張涌泉・孟雪 2015

【羽 94】

佐藤 2013a、佐藤 2013b、呂 2014、佐藤 2015、鄭阿財 2016

【羽 96】

王友奎 2012

【羽 98】

落合 2012

【羽 100】

蕭文眞 2012、蕭文眞 2013、蕭文眞 2015

【羽 150】

鄭阿財 2016

【羽 152】

聶志軍・林生海 2016

【羽 153V】

朱鳳玉 2013a、朱鳳玉 2013b

【羽 155】

鄭阿財 2016

【羽 172】

鄭阿財 2016

【羽 172V ノ 2、3】

坂尻 2012

【羽 173】

鄭阿財 2016

【羽 180】 上博 20 と接合

張小艷 2015a



- 【羽 182】  
池田將則 2014
- 【羽 183】 羽 518 と接合  
張涌泉・徐鍵 2015
- 【羽 184】  
鄭阿財 2013
- 【羽 192】  
鄭阿財 2013
- 【羽 230】  
聶志軍・林生海 2016
- 【羽 268】  
鄭阿財 2016
- 【羽 269】  
鄭阿財 2016
- 【羽 270】  
鄭阿財 2016
- 【羽 271】  
入澤・三谷・白田 2013、池田將則 2013、張凱 2013、呂德廷 2014、  
張凱 2014、張文良 2014
- 【羽 277】  
鄭阿財 2016
- 【羽 299 ノ 1】  
呂德廷 2014
- 【羽 309】  
鄭阿財 2016
- 【羽 310】  
鄭阿財 2016
- 【羽 325】  
鄭阿財 2016
- 【羽 326】  
張涌泉 2013、聶志軍・林生海 2016
- 【羽 333V】  
池田將則 2012、呂德廷 2014

- 【羽 337】  
鄭阿財 2016
- 【羽 339】  
呂德廷 2014
- 【羽 342】  
呂德廷 2014
- 【羽 356】  
鄭阿財 2016
- 【羽 359】  
鄭阿財 2016
- 【羽 386】  
鄭阿財 2016
- 【羽 393R】  
呂德廷 2014
- 【羽 408】  
張總 2015
- 【羽 411】  
西本 2012、西本 2013
- 【羽 414】  
呂德廷 2014、王卡 2015
- 【羽 422】  
鄭阿財 2016
- 【羽 426】  
聶志軍・林生海 2016
- 【羽 427】 P.3743 と接合  
張新朋 2013
- 【羽 431】  
高橋 2013、高橋 2014、Nicolini-Zani 2016、岩本 2016
- 【羽 432】 S.20 は同一寫本の離れ  
池田昌廣 2013
- 【羽 448】  
鄭阿財 2016
- 【羽 452】  
鄭阿財 2016

【羽 457】

鄭阿財 2016

【羽 457ノ11】

呂德廷 2014

【羽 458】

王卡 2015

【羽 459】

高橋 2013、高橋 2014、王蘭平 2014、Nicolini-Zani 2016、王蘭平  
2016、岩本 2016

【羽 460】

高橋 2013、高橋 2014、Nicolini-Zani 2016、王蘭平 2016、岩本 2016

【羽 513】

鄭阿財 2016

【羽 515】

鄭阿財 2016

【羽 518】 羽 183 と接合

張涌泉・徐鍵 2015

【羽 554】

張小艷 2015b

【羽 561】 斷片 m と大谷 3075 が接合する。また、大谷 3449 + 大谷 3078 は一聯の吐魯  
番文書。

池田溫 1998、片山章雄 2012、榮新江 2016

【羽 569】 上圖 18 と接合。散 0676（貞松堂舊藏本。碎片 20 片のうち一部は現在中國國  
家博物館に收藏 [歷博 52-2、52-3]）、ZSD076 は同一寫本の離れ。

山口 2016

【羽 570】 S.2781 と接合

橋堂 2011

【羽 587】

鄭阿財 2016

【羽 589】

鄭阿財 2016

【羽 589ノ7】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 8】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 13】 Дх.1893 と接合

呂德廷 2014、郜同麟 2016

【羽 589 ノ 14】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 16】

郜同麟 2016

【羽 589 ノ 19】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 20】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 21】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 27】

呂德廷 2014

【羽 589 ノ 28】

呂德廷 2014

【羽 590 ノ 9】

呂德廷 2014

【羽 590 ノ 10】

呂德廷 2014

【羽 597】

張小艷 2015b

【羽 609】 吐魯番文書

榮新江 2016

【羽 612】 羽 614、石谷風 60 と接合。Ch.75.IV.2 と筆跡が酷似する。

王卡 2015

【羽 613】

王卡 2015、郜同麟 2016

【羽 614】 羽 612、石谷風 60 と接合。Ch.75.IV.2 と筆跡が酷似する。

王卡 2015

【羽 615R】

王卡 2015

- 【羽 616】  
神塚 2015、王卡 2015
- 【羽 619】  
釋長叡 2015
- 【羽 620】 吐魯番文書  
榮新江 2016
- 【羽 620 ノ 2】  
速水 2011
- 【羽 623】  
菅野 2014a、菅野 2014b、鄭阿財 2016
- 【羽 628】  
朱鳳玉 2016
- 【羽 635】 羽 727 と接合  
張小艷 2015a
- 【羽 637R】  
王卡 2015
- 【羽 638】  
王卡 2015
- 【羽 639R+V】  
呂德廷 2014
- 【羽 645】  
鄭阿財 2016
- 【羽 646】  
鄭阿財 2016
- 【羽 647】  
鄭阿財 2016
- 【羽 649】  
呂德廷 2014
- 【羽 657】  
鄭阿財 2016
- 【羽 663】  
陳麗萍 2015
- 【羽 664】  
黑田 2011

- 【羽 664 ノ 1】 羽 664 ノ 9R の下部に貼り付けられている紙片と接合  
張新朋 2014
- 【羽 666】<sup>12</sup>  
神塚 2015、王卡 2015
- 【羽 673R】 S.3071、WB32-1(3) は同一寫本の離れ  
呂德廷 2014、神塚 2015、王卡 2015、郜同麟 2016
- 【羽 677】 羽 703 は同一寫本の離れ  
王祥偉 2016
- 【羽 682V】  
黒田 2011
- 【羽 686】  
赤木 2013、馮培紅 2013、榮・朱 2013、榮・朱 2014、Rong Xinjiang 2015
- 【羽 688】  
陳麗萍 2014a
- 【羽 689】  
岩尾 2014
- 【羽 690】  
陳麗萍 2014a
- 【羽 698R】  
呂德廷 2014、鐘靜美 2016
- 【羽 698V】  
山口 2011
- 【羽 703】 羽 677 は同一寫本の離れ  
王祥偉 2016
- 【羽 704R】  
郜同麟 2016
- 【羽 717R】  
陳麗萍 2014a
- 【羽 719】 吐魯番文書  
吉田 2014、榮新江 2016

---

<sup>12</sup>王卡 2015-432 頁所掲の表中に BD14841H が挙げられるが、羽 666 との關聯についてははっきりと述べられていない。

【羽 722R、V】有隣館 36 號と接合。V には兩者ほぼ同じ内容の書狀が記されており、羽田寫眞 445 にはさらにもう一點の類似の書狀が見える。

高田 2015

【羽 723】

張總 2015

【羽 726】

李子捷 2013、李相旻 2013、이상민 2014

【羽 727】羽 635 と接合

張小艷 2015a

【羽 728V】

西本 2014

【羽 733】

鄭阿財 2016

【羽 739V】

呂德廷 2014

【羽 741】

鄭阿財 2016

【羽 742V】

張總 2015

【羽 748】

鄭阿財 2016

【羽 771】

朱鳳玉 2016

#### 略號一覽

##### **TTD1 :**

co-edited by Tatsuro Yamamoto, On Ikeda, Makoto Okano, *Tun-huang and Turfan documents : concerning social and economic history / Legal texts (A) Introduction & texts (B) Plates*, Tokyo, Committee for the Studies of the Tun-huang Manuscripts, Toyo Bunko, 1978-1980

##### **TTD3:**

co-edited by Tatsuro Yamamoto, On Ikeda, *Tun-huang and Turfan documents : concerning social and economic history / Contracts (A) Introduction & texts (B) Plates*, Tokyo, Committee for the Studies of the Tun-huang Manuscripts,

the Toyo Bunko , 1986-1987

**TTDs:**

co-edited by Tatsuro Yamamoto, On Ikeda, Makoto Okano, *Tun-huang and Turfan documents: concerning social and economic history / Supplement (A) Introduction & texts (B) Plates*, Tokyo, Committee for the Studies of the Tun-huang Manuscripts, the Toyo Bunko, 1978-<2001>

識語：池田溫編『中國古代寫本識語集錄』東京：大藏出版，1990

著者別文獻一覽（アルファベット順）

赤木崇敏

2011：「唐代敦煌縣勘印簿羽 061, BD11177, BD11178, BD11180 小考」『敦煌寫本研究年報』第 5 號, 95-108 頁

2013：「10 世紀コータンの王統・年號問題の新史料——敦煌祕笈 羽 686 文書」『内陸アジア言語の研究』XXVIII, 101-128 頁

荒見泰史

2017：「『大目乾連冥間救母變文』の書き換えと“經典化”」『敦煌寫本研究年報』第 11 號, 23-38 頁

蔡淵迪

2012：「杏雨書屋藏敦煌舞譜卷子校錄竝研究」『敦煌研究』2012 年 1 期, 100-105 頁

陳國燦

2012：「讀《杏雨書屋藏敦煌祕笈》社會文書札記（一）」『魏晉南北朝隋唐史資料』第 28 輯, 249-262 頁

2013：「讀《杏雨書屋藏敦煌祕笈》札記」『史學史研究』2013 年 1 期, 111-122 頁

陳麗萍

2013：「杏雨書屋藏《秦婦吟》殘卷綴合及研究」『隋唐遼宋金元史論叢』第 2 輯, 139-147 頁

2014a：「杏雨書屋藏敦煌契約文書匯錄」『隋唐遼宋金元史論叢』第 3 輯, 139-147 頁

2014b：「敦煌本《大唐天下郡姓氏族譜》的綴合與研究——以 S.5861 爲中心」『敦煌研究』2014 年 1 期, 78-86 頁

2015：「日本杏雨書屋藏羽 663 R 號敦煌文書的定名」『魏晉南北朝隋唐史資料』第 31 輯, 277-291 頁



陳明

2012：「西域出土醫學文書的文本分析——以杏雨書屋新刊羽 042R 和羽 043 號寫卷為例」『慶賀饒宗頤先生九十五華誕敦煌學國際學術研討會論文集』北京：中華書局，489-520 頁

陳濤

2010a：「日本杏雨書屋藏唐代敦煌本『雜律疏』殘卷略說——原李盛鐸舊藏敦煌寫本」『敦煌學輯刊』2010 年 3 期，83-92 頁

2010b：「日本杏雨書屋藏唐代宮廷寫經略說」『中國歷史文物』2010 年 5 期，11-16 頁

2012：「唐代景教經典《志玄安樂經》的流向問題」『五邑大學學報（社會科學版）』2012 年 3 期，38-41 頁

2014：「日本杏雨書屋藏敦煌本《驛程記》地名及年代考」『南都學壇』2014 年 5 期，28-31 頁

2015：「唐大中年間沙州遣使中原路線新說——以敦煌本《驛程記》為中心」『蘭州學刊』2015 年 8 期，46-49 頁

陳勇

2014：「《敦煌祕笈·十六國春秋》考釋」『民族研究』2014 年第 2 期，74-85 頁

陳于柱

2014：「日本杏雨書屋藏敦煌文獻羽 42 背《雲氣占法抄》整理研究」『天水師範學院學報』2014 年 4 期，51-54 頁

2015：「日本杏雨書屋藏敦煌本《發病書》殘卷整理與研究」『敦煌吐魯番研究』第 15 卷，521-532 頁

鄭阿財 C → Z

周西波 C → Z

朱鳳玉 C → Z

鄧文寬

2012：「跋日本“杏雨書屋”藏三件敦煌曆日」黃正建主編『中國社會科學院敦煌學回顧與前瞻學術研討會論文集』上海：上海古籍出版社，153-156 頁

馮培紅

2013：『敦煌的歸義軍時代』（第九章曹氏政權的多邊外交（上）·第三節與于闐的世代和親·二、曹元忠娶于闐皇帝之女為妻），蘭州：甘肅教育出版社

高啓安

2012：「一件珍貴的敦煌僧人宴飲記錄——《敦煌祕笈》羽 067R、羽 067V 文書初解」『寒山寺佛學』第 7 輯，204-215 頁；再錄：高啓安『信仰與生活——唐宋間敦

煌社會諸相探蹟』蘭州：甘肅教育出版社，2014，77-92 頁

郜同麟

2016：「敦煌吐魯番道經殘卷拾遺」『敦煌學輯刊』2016 年第 1 期，34-50 頁

玄幸子

2011：「羽 039V を中心とした變文資料の再検討」『敦煌寫本研究年報』第 5 號，81-94 頁

速水大

2011：「杏雨書屋所藏「敦煌祕笈」中の羽 620-2 文書について」土肥義和（代表）『內陸アジア出土 4～12 世紀の漢語・胡語文獻の整理と研究』（科研基盤（C）研究成果報告書，平成 22 年度分冊），32-35 頁

2016：「P3899v 馬社文書に関する諸問題」『敦煌寫本研究年報』第 10 號，327-339 頁

蕭文眞 H → X

黃薇

2014：「李盛鐸“舊藏”敦煌古卷的前世今生」『藝術品鑑』2014 年第 2 期，113-115 頁

池田昌廣

2013：「敦煌祕笈の『漢書』殘卷」『杏雨』第 16 號，115-131 頁

池田將則

2012：「杏雨書屋所藏敦煌文獻『大乘起信論疏』（擬題、羽三三三 V）について」『불교학 리뷰（佛教學レビュー）』12 권（卷），45-167 頁

2013：「杏雨書屋所藏敦煌文獻義記（羽 271）の基礎的研究」『동아시아불교문화（東アジア佛教文化）』16 권（卷），149-20 頁

2014：「天津市藝術博物館舊藏敦煌文獻『成實論疏』（擬題，津藝 024）と杏雨書屋所藏敦煌文獻『誠實論義記』卷第四（羽 182）」『杏雨』第 17 號，316-228 頁（逆頁）

池田溫

1998a：「盛唐物價資料をめぐって——天寶二年交河郡市估案の斷簡追加を中心に」『シルクロード研究』創刊號，69-90 頁

1998b：「燉煌郡龍勒鄉天寶六載籍の一斷簡」『創價大學人文論集』第 10 號，251-260 頁

2000：「李盛鐸舊藏敦煌歸義軍後期社會經濟文書簡介」『慶祝吳其昱先生八秩華誕敦煌學特刊』臺北：文津出版社，29-56 頁

2011：「敦煌祕笈の價值」『杏雨』第 14 號，167-182 頁

入澤崇・三谷眞澄・臼田淳三

2013：「擬南齊竟陵文宣王所持の「雜義記」殘簡：『敦煌祕笈』羽二七一録文研究」『龍谷大學佛教文化研究所紀要』52集，160-220頁

岩本篤志

2004：「羽田記念館所藏「西域出土文獻寫眞」766・767『十六國春秋』考——李盛鐸舊藏敦煌文獻をめぐって」『西北出土文獻研究』創刊號，3-39頁

2005：「唐朝の醫事政策と『新修本草』——李盛鐸將來本序例を手がかりとして」『史學雜誌』114(6)，1046-1070頁

2006：「唐宋期における守庚申と盤上遊戯——『西域出土文獻寫眞』所收「宵夜圖考」『日本敦煌學論叢』第1卷，77-101頁

2010a：「敦煌本「霸史」再考——杏雨書屋藏・敦煌祕笈『十六國春秋』斷片考」『資料學研究』第7號，27-62頁

2010b：「敦煌と『新修本草』——なぜそこにあったのか（杏雨書屋第二十四回 研究會講演録 和漢の本草書——中世以前の寫本と刊本）」『杏雨』第13號，182-209頁

2011a：「『新修本草』序例の研究——敦煌祕笈本の検討を中心に」『杏雨』第14號，292-319頁

2011b：「敦煌祕笈「雜字一本」考——「雜字」からみた歸義軍期の社會」『唐代史研究』第14號，24-41頁

2011c：「敦煌占怪書「百怪圖」考——杏雨書屋敦煌祕笈本とフランス國立圖書館藏本の關係を中心に」『敦煌寫本研究年報』第5號，65-80頁

2012：「敦煌占怪書《百怪圖》考——以杏雨書屋敦煌祕笈本和法國國立圖書館藏的關係爲中心」余欣主編『中古時代的禮儀宗教與制度』上海：上海古籍出版社，126-142頁

2013：「唐宋時期的守庚申和棋盤游戯——《敦煌祕笈・宵夜圖》考」『國際漢學研究通訊』第6期，104-123頁

2016：「敦煌景教文獻と洛陽景教幢——唐代景教研究と問題點の整理——」『唐代史研究』第19號，77-97頁

岩尾一史

2014：「再論「吐蕃論董勃藏修伽藍功德記」——羽689の分析を中心に」『敦煌寫本研究年報』第8號，205-215頁

賈曉明・馬鴻雁

2012：「李盛鐸“舊藏”敦煌古卷的前世今生」『光明日報』2012年7月17日，13版

金少華

2010：「跋日本杏雨書屋藏敦煌本《算經》殘卷」『敦煌學輯刊』2010年4期，81-83頁

菅野博史

2014a：「杏雨書屋所藏『釋肇序抄義』翻刻」『東アジア佛教研究』12，131-146頁

2014b：「杏雨書屋所藏『釋肇序抄義』の研究」『印度學佛教學研究』第63卷第1號，480-472頁

片山章雄

2012：「杏雨書屋「敦煌祕笈」中の物價文書と龍谷大學圖書館大谷文書中の物價文書（史料紹介）」『內陸アジア史研究』27號，77-84頁

神塚淑子

2015：「杏雨書屋所藏敦煌道經小考」『名古屋大學中國哲學論集』第14號，43-68頁

橘堂晃一

2011：「清野謙次舊藏敦煌寫本の一斷簡によせて」『杏雨』第14號，320-328頁

小曾戸洋

2010：「敦煌本「新修本草序例」——新公開の李盛鐸本」『漢方の臨床』第57號第6卷，882-884頁

黒田彰

2011：「杏雨書屋本太公家教について——太公家教攷・補（二）」『杏雨』第14號，234-291頁

林敏

2004：「李盛鐸舊藏『照明菩薩經』解題・翻刻」『仙石山論集』第1號，79-113頁

2005：「『照明菩薩經』と『妙好寶車經』について」『仙石山論集』第2號，61-97頁

2008：「照明菩薩經」『藏外佛教文獻』第二編總第十輯，北京：中國人民大學出版社，195-210頁

李相旻 (이상민 · Lee SangMin)

2013：「《大乘十地論義記》(羽726R)」青木隆・荒牧典俊・池田將則・金天鶴・李相旻・山口弘江『장외지론중문헌집성 속집：藏外地論宗文獻集成 續集』서울：도서출판 씨아이알

2014：「『入楞伽經(입릉가경)』주석서에 나타난 초기 地論學派(지논학파)의 특징 -둔황사본 羽(우) 726R(『大乘十地論義記(대승십지논의기)』)을 중심으로」『선문화연구(禪文化研究)』16 권(卷)，139-172頁

李子捷

2013：「杏雨書屋所藏敦煌寫本『入楞伽經疏』（擬題、羽726R）について」『南都佛教』98，25-40頁

劉永明

2010：「日本杏雨書屋藏敦煌道教及相關文獻研讀札記」『敦煌學輯刊』2010年第3期，68-82頁

2016：「敦煌本道教《十戒經》考論」『歷史研究』2016年第1期，178-189頁

呂德廷

2014：「《敦煌祕笈》部分佛教與道教文書定名」『敦煌寫本研究年報』第8號，195-204頁

馬德

2011：「吐蕃國相尙紇心兒事跡補述——以敦煌本羽77號爲中心」『敦煌研究』2011年4期，36-44頁

牧野和夫

2003：「『孔子項託相問書』の世界：敦煌寫卷の斷簡一紙：俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所藏『[孔子項託相問書]』斷簡と京都大學內陸アジア研究所（羽田記念館）藏『羽田亨博士收集西域出土文獻寫眞』所收寫眞一葉との關係について」『實踐國文學』第63號，17—25頁

永田知之

2015：「『文場秀句』補說——『敦煌祕笈』羽072と『和漢朗詠集私注』」『敦煌寫本研究年報』第9號，57-71頁

聶志軍

2013：「日本杏雨書屋藏玄應《一切經音義》殘卷再研究」『古漢語研究』2013年1期，57-62頁

聶志軍・林生海

2016：「杏雨書屋藏四種敦煌本《佛說父母恩重經》再研究」『域外漢籍研究集刊』第13輯，349-372頁

**Matteo Nicolini-Zani**

2016: The Dunhuang Jingjiao Documents in Japan: A Report on Their Reappearance, Li Tang, Dietmar W. Winkler (eds.), *Winds of Jingjiao: Studies on Syriac Christianity in China and Central Asia*, Berlin: Lit Verlag, pp.15-26

西本照眞

2012：「杏雨書屋所藏三階教寫本『人集錄明諸經中對根淺深發菩提心法』一卷（羽411）翻刻」『東アジア佛教研究』10，37-55頁

2013：「三階教寫本『人集錄明諸經中對根淺深發菩提心法』：一卷の基礎的研究」『印度學佛教學研究』第61卷第2號，1003-997頁

2014：「杏雨書屋所藏三階教寫本『普親觀音頓除十惡法』の基礎的研究」『印度學佛教學研究』第63卷第1號，1-10頁

落合俊典

2001：「李盛鐸舊藏照明菩薩經探蹟」『佛教學淨土學研究：香川孝雄博士古稀記念論集』京都：永田文昌堂，21-32頁

2002：「李盛鐸舊藏開元廿二年寫『法花行儀』初探」『草創期の敦煌學』京都：知泉書館，203—224頁

2012：「杏雨書屋藏《佛說行七行現報經》眞偽之考察」，高田時雄編『涅瓦河邊談敦煌』京都：京都大學人文科學研究所，59-64頁

岡野誠

2011：「唐宋史料に見る『法』と『醫』の接點」『杏雨』第14號，130-166頁

大屋正順

2014：「北魏敦煌鎮寫經の書風について」『大正大學研究紀要』第99輯，312-295(1-18)頁

榮新江

2015: Reality or Tale? Marco Polo's Description of Khotan, *Journal of Asian History*, Vol. 49, No. 1-2, Chinese and Asian Geographical and Cartographical Views on Central Asia and Its Adjacent Regions (2015), pp. 161-174

2016：「日本散藏吐魯番文獻知見録」『浙江大學學報（人文社會科學版）』第46卷第4期，18-26頁

榮新江・朱麗雙

2013：『于闐與敦煌』（第七章于闐玉石的朝貢貿易・第二節于闐玉石的東漸敦煌與入貢中原），蘭州：甘肅教育出版社

2014：「從進貢到私易：10-11世紀于闐玉的東漸敦煌與中原」『敦煌研究』2013年第3期，190-200頁

齊藤茂雄

2014：「唐後半期における陰山と天德軍：敦煌發現「驛程記斷簡」（羽〇三二）文書の検討を通じて」『關西大學東西學術研究所紀要』（47），71-99頁

坂尻彰宏

2012：「杏雨書屋藏敦煌祕笈所收懸泉索什子致沙州阿耶狀」『杏雨』第15號，374-389頁

佐藤禮子

2013a：「羽 094R 「(擬) 天臺智者大師智顛別傳」初探」『敦煌寫本研究年報』第 7 號, 297-311 頁

2013b：「淺析『維摩詰所說經』道液疏之末疏——承前『羽 094R 「(擬) 天臺智者大師智顛別傳」初探』」『敦煌學』第 30 輯, 21-43 頁

2015：「道液維摩疏の受容を示す一寫本——羽 094R と北大藏 D245 について」『敦煌寫本研究年報』第 9 號, 111-129 頁

釋長叡

2015：『「杏雨書屋」所藏敦煌寫卷「羽 619」與「阿含部類」的關係研究』法鼓佛教學院碩士論文

高橋英海

2013：Transcription of Syriac Names in Chinese-Language Jinjiao Documents, *From the Oxus River to the Chinese Shores: Studies on East Syriac Christianity in China and Central Asia*, Berlin: LIT, pp.13-24

2014：Transcription of Syriac in Chinese and Chinese in Syriac script in the Tang Period, *Scripts Beyond Borders: A Survey of Allographic Traditions in the Euro-Mediterranean World*, Louvain-la-Neuve: Université catholique de Louvain, Institut orientaliste, pp.329-349

高田時雄

2011：「李盛鐸舊藏寫本《驛程記》初探」『敦煌寫本研究年報』第 5 號, 1-13 頁

2015：「日藏敦煌遺書の來源と眞偽問題」『敦煌寫本研究年報』第 9 號, 1-17 頁；  
中國語譯：馬永平譯「日藏敦煌遺書の來源與眞偽問題」『西南民族大學學報（人文社科版）』2016 年第 11 期, 185-192 頁

田衛衛

2015：「《秦婦吟》敦煌寫本新探——文本概觀與分析」『敦煌研究』2015 年第 5 期, 81-92 頁

王卡

2015：「敦煌本《洞真高上玉帝大洞雌一玉檢五老寶經》校讀記」『敦煌吐魯番研究』第 15 卷, 427-446 頁

王蘭平

2014：「日本杏雨書屋藏唐代敦煌景教寫本《序聽迷詩所經》釋考」『敦煌學輯刊』2014 年第 4 期, 27-47 頁

2015：「日本杏雨書屋藏唐代敦煌景教寫本《志玄安樂經》釋考」『敦煌學輯刊』2015 年 2 期, 71-85 頁

2016：「日本杏雨書屋藏富岡文書高楠文書眞僞再研究」『敦煌學輯刊』2016年第1期，10-33頁

王三慶

2014：『敦煌吐魯番文獻與日本典藏』臺北：新文豐出版

王天然

2012：「讀杏雨書屋所藏八件經部敦煌寫本小識」『아시연구 (아시아研究)』제 (第) 16 호 (號)，23-46頁

王祥偉

2011：「日本杏雨書屋藏四件敦煌寺院經濟活動文書研讀札記」『中國社會經濟史研究』2011年第3期，18-24頁

2014a：「日本杏雨書屋藏敦煌文書羽044之《釜鳴占》研究」『文獻』2014年4期，80-90頁

2014b：「一件罕見的“狐鳴占”文獻及相關問題」『中國典籍與文化』2014年第1期，156-159頁

2016：「日本杏雨書屋藏敦煌寺院經濟文書羽677+羽703研究」『中國社會經濟史研究』2016年第2期，18-26頁

王友奎

2012：「敦煌寫本《呪魅經》研究」『敦煌研究』2012年2期，97-109頁

夏國強

2016：「日本杏雨書屋刊布李盛鐸舊藏敦煌寫本《論語》敘論」『孔子研究』2016年第2期，46-51頁

蕭文眞

2012：「《敦煌祕笈》羽——100號殘卷性質之析論」『文學新鑰』第15期，71-98頁

2013：「『敦煌祕笈』羽——100號殘卷的特性およびその眞僞」『印度學佛教學研究』第61卷第2號，1021-1018頁

2015：「《敦煌祕笈》羽——100號殘卷性質之試探」『敦煌學』第31輯，145-154頁

許建平

2011：「杏雨書屋藏玄應《一切經音義》殘卷校釋」『敦煌研究』2011年5期，52-60頁

2012：「杏雨書屋《詩經》殘片三種校錄及研究」中央文史研究館·敦煌研究院等編『慶賀饒宗頤先生九十五華誕敦煌學國際學術研討會論文集』北京：中華書局，443-455頁

山口正晃

2011：「『十方千五百佛名經』全文復元の試み」『敦煌寫本研究年報』第5號，177-212



頁

2012：「羽53「吳安君分家契」について——家産相續をめぐる一つの事例」『敦煌寫本研究年報』第6號，99-116頁；中國語譯：顧奇莎譯「羽53《吳安君分家契》——圍繞家産繼承的一個事例」『中國古代法律文獻研究』第6輯，2013，251-268頁  
2016：「羅振玉舊藏『新定書儀鏡』斷片の綴合」『敦煌寫本研究年報』第10號，69-87頁

山本孝子

2012：「書儀の普及と利用——内外族書儀と家書の關係を中心に」『敦煌寫本研究年報』第6號，169-191頁  
2015：「敦煌發見の書簡文に見える「詔」——羽071「太太與阿耶、阿叔書」の書式に關聯して」『敦煌寫本研究年報』第9號，93-109頁

吉田豊

2014：「敦煌祕笈中のマニ教中世ペルシア語文書について」『杏雨』第17號，324-317頁（逆頁）

游自勇

2013：「敦煌寫本《百怪圖》補考」『復旦學報（社會科學版）』2013年第6期，510-523頁

湯谷祐三

2004：「新出敦煌孝子傳資料と變文の關係——羽田記念館所藏「西域文獻資料寫真」所收孝子傳資料をめぐる」『同朋大學佛教文化研究所紀要』第23號，87-104頁

虞思徵

2014：『日藏玄應《一切經音義》寫本研究』上海師範大學碩士論文

張凱

2013：「中國南朝の法身思想に關する一考察——特に『敦煌祕笈』羽二七一『不知題佛經義記』をめぐる」『武藏野大學人間科學研究所年報』，第3號，95-108頁  
2014：「《敦煌祕笈》羽二七一《不知題佛經義記》的基礎研究」『世界宗教研究』2014年6期，56-65頁

張小剛・郭俊葉

2015：「敦煌“地藏十王”經像拾遺」『敦煌吐魯番研究』第15卷，95-109頁

張小虎

2011：「敦煌算經九九表探析」『溫州大學學報（自然科學版）』2011年2期，1-6頁

張小艷

2015a：「敦煌疑偽經四種殘卷綴合研究」『宗教學研究』2015年4期，87-94頁

- 2015b：「敦煌本《衆經要攬》研究」『敦煌吐魯番研究』第15卷，279-320頁  
張文良
- 2014：「南朝十地學の一側面——法安の十地義解釋を中心とする」『印度學佛教學研究』第62卷第2號，576-582頁  
張新朋
- 2013：「敦煌蒙書殘片考」『文獻』2013年第5期，73-82頁  
2014：「敦煌寫本《太公家教》殘卷綴合三則」『魏晉南北朝隋唐史資料』第30輯，182-188頁  
張涌泉
- 2013：「敦煌寫本羽326號殘卷敘錄」『中國俗文化研究』第8輯，1-5頁  
2015：「新見敦煌變文寫本敘錄」『文學遺產』2015年5期，130-152頁  
2016：「敦煌殘卷綴合：拼接撕裂的絲路文明」『中國社會科學報』2016年5月24日（web版：中國社會科學網[http://www.cssn.cn/zgs/zgs\\_lswxx/201605/t20160524\\_3021438.shtml](http://www.cssn.cn/zgs/zgs_lswxx/201605/t20160524_3021438.shtml)，最終閱覽日2016年12月12日）  
張涌泉·孟雪
- 2015：「國圖藏《梵網經》敦煌殘卷綴合研究」『出土文獻與古文字研究』第6輯，791-824頁  
張涌泉·徐鍵
- 2015：「《瑜伽師地論》系列敦煌殘卷綴合研究」『安徽大學學報（哲學社會科學版）』2015年第3期，72-87頁  
張涌泉·張新朋
- 2012：「敦煌殘卷綴合研究」『文史』2012年第3輯，313-330頁  
張總
- 2015：「《十王經》新材料與研考轉遷」『敦煌吐魯番研究』第15卷，53-93頁  
趙晶
- 2014：「羽25v〈倉夫令狐良嗣牒〉初探——兼論〈倉庫令〉宋1的唐令復原問題」『中國史研究』第90輯，111-126頁；再錄：『「天聖令」與唐宋法制考論』上海：上海古籍出版社，2014，191-202頁；『金塔居延遺址與絲綢之路歷史文化研究』蘭州：甘肅教育出版社，2014，790-797頁  
趙貞
- 2014：「杏雨書屋藏羽41R《雜字一本》研究——兼談歸義軍時期的童蒙識字教育」『敦煌學輯刊』2014年4期，48-68頁  
鄭阿財
- 2010：「從〈敦煌祕笈〉羽39V殘卷〈舜子變〉的形成」朱鳳玉·汪娟編『張廣達

先生八十華誕祝壽論文集』臺北：新文豐出版公司，745-768 頁

2013：「論日本藏敦煌寫本及古寫經靈驗記的價值」『敦煌寫本研究年報』第 7 號，23-50 頁

2016：「杏雨書屋《敦煌祕笈》所見《維摩詰經》及其相關文獻」『佛光學報』新 2 卷第 1 期，1-33 頁

鐘靜美

2016：「敦煌寫本《劉薩訶和尚因緣記》」『鴨綠江』2016 年第 5 期，40-39 (ママ) 頁

2012：「《敦煌祕笈》“羽 072b”寫卷的性質與意義」中央文史研究館·敦煌研究院等編『慶賀饒宗頤先生九十五華誕敦煌學國際學術研討會論文集』北京：中華書局，473-488 頁

朱鳳玉

2013a：「羽 153v《妙法蓮華經講經文》殘卷考論——兼論講經文中因緣譬喻之運用」『敦煌吐魯番研究』第 13 卷，47-61 頁

2013b：「敦煌《妙法蓮華經講經文》(普門品)殘卷新論」『敦煌寫本研究年報』第 7 號，51-68 頁

2016：「散藏敦煌遺書所見題跋輯錄與研究——以許承堯舊藏題跋為例」『敦煌寫本研究年報』第 10 號，21-33 頁

總論

陳濤

2010：「日本杏雨書屋藏《敦煌祕笈》中李盛鐸藏書印管見」『北京師範大學學報(社會科學版)』2010 年第 4 期，74-81 頁

2010：「日本杏雨書屋藏《敦煌祕笈》目錄與《李(木齋)氏鑑藏敦煌寫本目錄》之比較」『史學史研究』2010 年第 2 期，92-115 頁

藤枝晃

1985：「德化李氏凡將閣珍藏」印について』『學叢』第 7 號，153-173 頁

岩本篤志

2010c：「杏雨書屋藏「敦煌祕笈」概觀——その構成と研究史」『西北出土文獻研究』第 8 號，55-81 頁

2013：「敦煌祕笈所見印記小考——寺印・官印・藏印」『內陸アジア言語の研究』XXVIII, 129-170 頁

落合俊典

2004：「李盛鐸と敦煌祕笈」『印度學佛教學研究』第 52 卷第 2 號，2004，166-172

頁

2004：「敦煌祕笈目錄（第 433 號至 670 號）略考」『敦煌吐魯番研究』第 7 卷，174-178 頁

2001：「羽田亨《敦煌祕笈目錄》簡介」『敦煌文獻論集』瀋陽：遼寧人民出版社，91-101 頁

2012：《李盛鐸舊藏敦煌本的真偽》，Dunhuang Studies：Prospects and Problems for the Coming Second Century of Research, Дуньхуановедение: Перспективы и проблемы в второго столетия с следований, ed. by I.F.Popova and Liu Yi, St.Petersburg: Slavia Publishers, pp.196-199

榮新江

1996：『海外敦煌吐魯番文獻知見錄』南昌：江西人民出版社

1997：「李盛鐸藏敦煌寫卷的真與偽——附錄：李木齋氏藏敦煌寫本目錄」『敦煌學輯刊』，1997 年第 2 期，1-18 頁；再錄：『鳴沙集』臺北：新文豐出版公司，1999，103-146 頁；『辨偽與存真——敦煌學論集』上海：上海古籍出版社（『鳴沙集』の増訂版），2010，47-73 頁

2007：「追尋最後的寶藏——李盛鐸舊藏敦煌文獻調查記」，劉進寶・高田時雄主編『轉型期的敦煌學』上海：上海古籍出版社，15-32 頁

高田時雄

2004：「明治四十三年（1910）京都文科大学清國派遣員北京訪書始末」『敦煌吐魯番研究』第 7 卷，13-27 頁

2006：「清野謙次蒐集敦煌寫經の行方」『漢字と文化』第 9 號，9-11 頁

2007：「李滂と白堅——李盛鐸舊藏敦煌寫本日本流入の背景」『敦煌寫本研究年報』創刊號，1-26 頁

2008：「李滂と白堅（補遺）」『敦煌寫本研究年報』第 2 號，185-190 頁

2012：「李滂と白堅（再補）」『敦煌寫本研究年報』第 6 號，283-290 頁

2014：「李滂與白堅」『西域文史』第 9 輯，333-367 頁

2014：「羽田亨與敦煌寫本」『敦煌研究』2014 年第 3 期，184-189 頁（牛源譯）

張娜麗

2006：「羽田亨博士收集「西域出土文獻寫真」について」『お茶の水史學』50 號，1-64 頁

2010：「羽田亨博士收集西域出土文獻寫真とその原文書——文獻の流散とその遞傳・寫真撮影の軌跡」『論叢現代語・現代文化』第 5 號，1-27 頁

（編者は京都大學國際高等教育院非常勤講師）